

2018年(平成30年)

10/9 火

第20819号

日刊(土曜・日曜・祝日休刊)

日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

INTTRAとエクサス

ACL情報変換・配信

BL作成に利用しやすく

海運ポータル運営大手INTTRAと、物流情報システムのクラウドサービスなどを手掛けるエクサス(神戸市中央区、柚田貞隆社長)はこのほど、船積み確認事項登録(ACL)情報の変換サービスを開始した。海貨業者がNACCS(輸出入・港湾関連情報処理システム)に提供する情報を、EDI(電子データ交換)の国際標準EDIFACTやXMLのフォーマットに変換。船社・NVOC(海上利用運送事業者)が自社BL(船荷証券)の作成に利用しやすくする。また、手入力のコスト、誤入力リスクを削減することで、日本の海運業界全体の業務効率化に貢献する。

ACL業務は、通関業者、海貨業者などが船社・NVOCに対してBL作成に必要な船積み情報をNACCSで送信する業務。ファクスなど紙ベースで提出される情報を電子化することで、関係者間の大幅な業務効率化が期待されてきた。

しかし、NACCSは独自のEDIフォーマットを利用しており、国際標準のEDIFACTを採用することが多い船社システムではそのまま利用することができない。

また、データの不備や入力項目の違いなどもあり、実際のBL作成には

一定の修正作業が必要となる。これらは現在、各社が一定の人員を擁し、手作業で対応している。また、大手物流会社でも、通関部門はNACCSと接続しているが、NVOC・フォワーディング部門は接続していないことが多く、ACL情報も入手できていない。

このため、海貨業者などからPDF・画像データなどで受け取った船積み情報を手入力し、ハウスBLを作成している。

このように、NACCS側の想定とは裏腹に、ACL業務はBL作成にはあまり利用されてい

て、船社・NVOCに提供する。INTTRAは海運ポータルサイトを運営し、既に主要外航船

社、大手NVOCとシステム接続しているため、迅速な導入が可能だ。

INTTRAでは「同様の交換システムを船社・NVOCが自社開発すれば数百万円以上のコストがかかるが、INTTRA・エクサスの新サービスであれば初期費用と月額固定使用料、計数十万円で、ACL情報を

自社BL作成に活用することができると、新サービスのメリットを説明する。

既に欧州系など欧州船社向けにACL情報変換サービスを開始しており、NVOCとも協議を行っている。今後、主にNVOC・フォワーダーを対象に、広く営業活動を展開していく。